

指 定 管 理 者 評 価 シ ー ト

所 管 課	こども家庭部 こども家庭室 子育て・家庭支援課
評価対象期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日

施 設	名 称	川西市久代児童センター
	所 在 地	兵庫県川西市久代3丁目16番30号
	設置目的	児童の健全な育成を図るため、川西市久代児童センターを設置する。
	利用料金制	非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制
指 定 管 理 者	名 称	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会
	所 在 地	兵庫県川西市火打1丁目1番7号
指定業務の内容	<p>(1)健全な遊びをとおしての児童の集団的及び個別的指導に関する事。</p> <p>(2)児童の体力増進の指導に関する事。</p> <p>(3)子ども会、母親クラブ等の地域組織活動の育成及び助長に関する事。</p> <p>(4)施設の使用の許可、その取消しその他施設の使用に関する事。</p> <p>(5)施設及び付属設備の維持管理に関する事。</p> <p>(6)開館時間及び休館日の変更に関する事。</p> <p>(7)そのほか、市長が必要と認める業務に関する事。</p>	
指 定 期 間	平成24年4月1日～平成29年3月31日	

評価項目及び評価のポイント	自己評価(指定管理者)		一次評価(市・所管課)		二次評価
	評価レベル	所見	評価レベル	所見	所見
1 施設の設置目的の達成に関する取組み【有効性】	A		A		
(1) 施設の設置目的である事業運営の達成	A		A		
① 事業計画に則って施設の事業運営が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果が得られているか。	A	事業は年間計画に沿って実施しており、地域性や伝統などを考慮し工夫を重ねています。行事予定表やお知らせを定期的また随時配布し、市の広報等やホームページも利用して広報活動しています。また、一昨年立ち上げた事業も年々参加者がふえてきています。(パパと遊ぼう・赤ちゃんとのふれあい交流会など)	A	毎月、乳幼児・小学生別等に事業を計画的に実施している。父親参画などの新しい事業も定着してきている。 中学生における「トライやるウイーク」や、高校生と乳幼児とのふれあう事業、また、高齢者と関わる機会を持つなど、施設の利用者に有効な世代間事業等の取り組みがなされている。 広報については、毎月の行事予定表や広報誌等を活用し、広く事業の案内がなされている。	パパと遊ぼうや、中高生と赤ちゃんの交流について、学校との連携を取るなど評価できる。
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。	A		A		
③ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	A		A		
改善項目		立地面で市の南端にあり公共の交通機関がバスのみで、また駐車場も老人福祉センターと共用で狭く遠方の方には利用し辛くなっており何らかの対応が必要と思われます。		当該施設は、南部地域にあり交通手段が限られるため、利用者が限定されがちである。 隣接施設の駐車スペースを活用するなどの検討が必要である。	特になし
(2) 施設の利用状況及び事業への参加状況	A		A		
① 施設の目的に則って、有効に活用(利用)されていたか。	A	利用者数は24年度は小学生の利用が大きく減り全体でも千人以上落ち込みましたが、人数的には23年度のレベルまで回復しました。小学生の利用も増えましたが、幼児とその保護者の増加が著しく影響しました。中高生対象の事業も少しずつ定着しつつあり参加者も増えています。	A	利用人数は増加している。幼児とその保護者が大きく増加していることにより、気軽な相談の場や子育て仲間を求める子育て中の保護者のニーズに応えられていると考える。 いろいろな年齢層の児童を対象に、多彩な事業を展開している。	特になし
② 実施された事業への参加者数の増が図られたか。	A		A		
改善項目		引き続き中学生以上を対象にした事業を継続的に実施し、利用者の増加を図ることが必要です。		参加者の増を図るには、今後も利用者が求めている事業であるか、参加しやすい事業であるかなど、アンケートを分析する必要があります。	特になし

評価項目及び評価のポイント	自己評価(指定管理者)		一次評価(市・所管課)		二次評価
	評価レベル	所見	評価レベル	所見	所見
(3) 利用者の満足度	A		A		
① 利用者からの苦情に対して十分な対応がなされたか。	A	苦情というものはほとんどなく要望や相談がたまにありますが、できる限り速やかに適切に対応しています。アンケート結果を基にして要望の多い講座を実施するように心がけています。母親リフレッシュ講座は毎回好評です。中高生や父親を対象とした事業も少しずつ参加者が増えてきています。	A	事業ごとにアンケートをとり次回の事業への参考にしており、参加者が増加する等一定の効果がみられる。	市民への周知方法については、ホームページ・広報誌や、地域の方からの口コミを利用するなどしている。 立地条件に不便さもあることから、特に参加者からのアンケートによりニーズをつかむことが必要。
② 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られたか。	A		A		
③ 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。	A		A		
④ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果が得られたか。	B		B		
改善項目		常にその時代、次の時代のニーズをふまえて新しい取組みを考えています。今後も常に新しい(時代のニーズに沿った)取組みを考えていくことが必要だと思われます。		中・高生や父親・母親・親子を対象とした、趣向を凝らした取組みを行っている。 多種多様な要望の中で、すべての利用者に反映させることは容易ではないが、今後も要望に沿えるよう事業の実施に柔軟に取り組む必要がある。	特になし
2 効率性の向上に関する取組み【効率性】	B		A		
(1) 経費の節減	B		A		
① 施設の管理運営に関し、経費を効率的に節減するための十分な取組みがなされ、その効果が得られたか。	B	節約に対しての意識は全職員徹底されており常に経費の節減に努めています。現状では使用していない部屋の照明や、空調をこまめに切り切りする以外に方法がありません。一方で設備自体が老朽化しており効率も悪く修理のリスクも年々高くなっています。	A	最少の経費で最大の効果が出るよう、職員全体で施設の管理運営経費の節減に取り組んでいる。 築年数が経過し老朽化していることから、今後はさらに細やかに管理していくことが必要である。	特になし
② 指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるような工夫がなされたか。	B		B		
改善項目		こまめにスイッチを切る、必要以外は裏刷りを使用する等人為的な節減は続けていかなければなりません。設備自体古く効率が悪いことや修理の頻度や程度のことを考えると今後計画的に高効率な設備(空調・トイレ・照明等)に変えていく必要があります。		経費を節減することにより、子どもたちの安全が守られなくなることがないように配慮するとともに、危険箇所については、速やかな修繕等を今後も望む。	特になし

評価項目及び評価のポイント	自己評価(指定管理者)		一次評価(市・所管課)		二次評価
	評価レベル	所見	評価レベル	所見	所見
(2) 収入の増加 ※利用料金制を採用している場合のみ評価	—		—		
① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果が得られたか。	—	—	—	—	—
改善項目		—		—	—
(3) 収支のバランスなど ※利用料金制を採用している場合のみ評価	—		—		
① 収支のバランスが適切であったか。	—		—		
② 経費の効果的、効率的な執行が行われたか。	—	—	—	—	—
③ 収支の内容に不適切な点はなかったか。	—		—		
改善項目		—		—	—

評価項目及び評価のポイント	自己評価(指定管理者)		一次評価(市・所管課)		二次評価
	評価レベル	所見	評価レベル	所見	所見
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み【適正性】	A		A		
(1) 管理運営の実施状況	A		A		
① 施設の管理運営には、適切な人員配置がされたか。	B		B		
② 業務に必要な研修・教育が適切に行われたか。	B	<p>日常の清掃や定期清掃、設備の保守点検契約等適切に行われています。人員についても老人福祉センターの職員4名が兼務となっており人手の必要な事業にも対応していますが準職員の公休の消化や夏季休暇の付与等考えると兼務が厳しくなっています。</p>	A	<p>日常の清掃や定期清掃、設備の保守点検等施設は適切に維持管理されている。老人福祉センターとの併設により、職員も兼務となっているが、各事業間においては職員間の協力姿勢をとっている。</p>	特になし
③ 施設の維持管理が適切に行われたか。	A		A		
④ 指定管理者の提案による新たな取り組みは実施されたか。	A		B		
改善項目			<p>準職員の勤務状況が、旧事業団のまま変則的になっているため準職員1人につき公休が月3日付与となっており、職員全員が揃わない日が多く、特に夏休み期間中、小中学生の利用が増加するとともにプール等の事業も増えるので人員が不足しており、行事を立案するうえで苦慮しています。準職員の勤務条件の改善が必要です。</p>		

評価項目及び評価のポイント	自己評価(指定管理者)		一次評価(市・所管課)		二次評価
	評価レベル	所見	評価レベル	所見	所見
(2) 個人情報の保護、安全対策、危機管理体制、平等利用など	A		A		
① 施設の設置目的に応じた効果的な利用者への情報提供・広報活動が十分になされたか。	A	<p>公的な教育施設等に予定表やお知らせを配布し行事予定等を周知できるように努めています。小学生以下の利用者が遊びに夢中になっているときに怪我等の発生を予測することは難しいですが、けが等が発生した場合の処置、連絡など対処は適切に行えています。また、事故等の原因になったと思われるものの処理・撤去などは即座に行われています。</p>	A	<p>子どもたちが、安全に過ごせるよう常に点検を行い、危険箇所があれば即座に修理等を行っている。 また、けが等が発生した場合の処置、連絡などの対処は適切に行っている。</p>	特になし
② 施設利用者の個人情報の取扱いが適切に行われたか。	A		A		
③ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	B		B		
④ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。	A		A		
⑤ 事故発生時や非常災害時の対応が適切であったか。	A		A		
⑥ 利用者を限定しない施設では、利用者が平等に利用できるよう配慮されたか。	A		A		
⑦ 利用者が限定される施設では、利用者の選定が公平で適切になされたか。					
改善項目		<p>小さな子どもの行動は予測しがたく、事故を全くなくすことはできませんが、各職員がその状況に応じた適切な対応ができる必要があります。遊戯室の防護壁は早急に修繕する必要があると思われます。</p>		<p>子どもの行動は予測しにくいいため、何が事故につながるかわからない。 そのため、常に、危険箇所がないか等利用者が安全に過ごせるよう意識し、点検を行う必要がある。</p>	特になし

評価項目及び評価のポイント	自己評価(指定管理者)		一次評価(市・所管課)		二次評価
	評価レベル	所見	評価レベル	所見	所見
総合評価	A	常に、利用者や保護者のニーズをふまえ、積極的に新しい行事(パパと遊ぼう・インターンシップの受け入れ・中高生と赤ちゃんのふれあい交流会等)などを企画し、定着しつつあります。また、幼児をお持ちの利用者の方々の信頼も厚くいろいろな子育ての相談も伺っています。	A	南部地域にある児童厚生施設として、年齢層別・世代間交流・育児への父親参画など利用者のニーズに応えながら事業を行っている。 これからも、安心・安全に過ごしてもらえよう、常に事業等の見直しを行い、川西児童館、子育て・家庭支援課等子育てに関わる部署と連携しながら、子どもたちに健全な遊び、子育て支援を行ってほしい。	積極的に事業に取り組んでいる。 地震等の災害に対する適切な対応が必要であるが、年2回の避難訓練と、月1回の消火訓練を実施している。 また、県警との自動110番通報システムを年1回点検している。 駐車場が少ないので、何らかの対処方法の検討が必要。 トイレが洋式であれば利用しやすい。
改善項目		組織として仕事をしていく上で、それぞれの職責をはっきりとさせ、分業化を進めるべきであると思われます。皆が交代で全てのことをするのではなく効率化を図る必要があります。そのためにも準職員の勤務・処遇の見直しが早急に必要です。		雇用形態が様々な中で、職員間の意思疎通・情報共有を図り、効率的に事業の実施や、施設の運営を行い、地域とのつながりを深めることができるよう努める。	特になし